

活用事例	3 4 9 授業中に地震・火災が発生し、避難経路を変更しなければならなくなった上に、津波が発生した場合の隣接する学校との二次避難場所までの合同避難訓練 【特色】 小中合同の避難訓練、火災発生等による避難経路の変更		
学校名	阿武町立阿武小学校・阿武中学校		
日時	平成25年11月28日(木) 10:00～10:30		
場所	阿武小・中運動場 阿武町体育センター	参加者	阿武小学校児童・教職員 阿武中学校生徒・教職員 県防災アドバイザー2名

1 訓練のねらい

- (1) 授業中に地震が発生し、避難行動を開始した際、火災の発生等により予定していた避難経路を変更しなければならなくなった場合に、避難経路の安全を確認しながら、避難場所まで落ち着いて避難できるか、また、一次避難後に津波警報が発令され、二次避難場所まで整然と避難できるかを検証する。
- (2) 児童・生徒の避難訓練であると同時に、教職員の適切な指示訓練及び誘導訓練であるという意識をもって訓練に臨み、その様子について振り返る。
- (3) 小・中学校連携による効果的・実践的な避難訓練のあり方を探る。

2 訓練の概要

- (1) 状況の想定
 - ・午前10時頃、地震発生。
 - ・避難行動開始時に停電を想定しての避難指示。
 - ・火災発生、校舎破損により避難経路の変更あり。
 - ・一次避難後に、津波情報により二次避難を行う。
- (2) 訓練の流れ
 - ① 地震発生
 - ◇ 緊急地震速報
 - ◇ 校内放送
 - ◇ 効果音
 - ② 揺れが収まる
 - ◇ 情報収集及び避難指示
 - ③ 避難（停電を想定してのハンドマイクによる避難指示、通行不能箇所の設定）

「避難訓練。ただ今、緊急地震速報を受信しました。まもなく強い地震が発生します。机の下に潜り、身の安全を守りなさい。」



机の下での安全確保



外階段を使っでの避難



一次避難

④ 津波警報発令による二次避難（町体育センター2階へ）



小中一緒に避難



教職員による誘導



2階への避難

3 訓練の成果と課題

【成果】

- ◇ 阿武小・中学校は、同じ運動場を共有するという隣接した立地条件にある学校であるが、避難訓練については初めての合同実施であった。地震・津波という自然災害においては、どちらの学校も同じような対応が考えられるし、二次避難場所も同じ場所への避難であるので合同での実施となった。阿武小学校では、担任以外の教職員数が少なく、児童を安全な避難に導く避難誘導員の役目を果たす教職員の配置が難しいという課題があったが、中学校と合同で行うことで、中学校教職員の自主的な誘導の動きによりスムーズな避難につなげることができた。
- ◇ 避難訓練のねらいの中に「教職員の適切な指示訓練及び誘導訓練」という視点を入れていたが、県防災アドバイザーの指導により、「教職員は避難者ではなく、避難誘導員である。」という大切な視点の確認と、誘導の際の指示の出し方について具体的に学ぶことができた。
- ◇ 津波発生時の二次避難場所については町体育センターであったが、避難場所としてどうなのかという視点で教育委員会と検討することになった。阿武町で起こりうる津波の高さや長時間の避難に対応すること、周囲の情報の得やすさ等を考慮して、阿武小学校2階が適しているのではという指導を受けた。

【課題】

- ◆ 避難訓練の設定にかかわることとして、「学級の中に負傷者がいる場合」、「児童生徒が運動場で遊んでいる時に急に地震が起きた場合」、「管理職不在の場合」、「学校の中の役割を変えて行う」などいろいろな設定で行うことで、教職員の危機管理意識を向上させる。
- ◆ 児童生徒に判断させる機会を与え、指示がなくても自分で考えて行動する力を付けていく。
- ◆ 避難誘導員としての実践力を高めていく。（適切な指示の出し方、立ち位置など）